

## 富山県立魚津高等学校 アメリカ研修五日目報告書

気が付けば Kaplan に通うのも今日を含め 2 日となりました。授業は 3 日目を迎え、慣れしてきたこともある一方、乗り越える壁はいくつもあります。一步一步確実に人間関係を築きたい生徒たちにとって、アメリカの自由さは予想がつきません。日によって来たり来なかつたりする気まぐれなクラスメイトや、昨日は仲良く話せたのに今日はスマホを触っていて話しかける隙が無いなど、状況は一進一退、順調には進みません。明日話をしよう、ランチに誘おうと思っけていても、翌日にはそのチャンスがないことも。一週間の滞在は確かに短いですが、期限付きだからこそ今やらねばと自分を奮い立たせるしかないのです。このことを実際に体験して理解した生徒たちは、残りの時間が見えてきた今こそエンジン全開の行動力を見せます。ようやく今日、外国人の留学生を誘いランチを共にする生徒が出てきました。連絡先を交換したと言う生徒もおり、明日に向けてラストスパートに入りました。

本日午後のアクティビティは CIC(Cambridge Innovation Center)への訪問です。こちらは世界最大級のコワーキングスペースであり、1000 以上のスタートアップとその関連企業が集積しています。CIC はただオフィスを共有しているということではなく、“イノベーションを生み出す場” ということ、様々なジャンルの人たちが同じ場所で働く環境にあることでビジネスチャンスが生まれて行きます。CIC についてプレゼンをして下さったのは、日本育ちでボストンに進学したバックグラウンドのある Lia さん。生み出す側とそれを使う側を繋ぐ橋のような存在、とご自分の役割を分かりやすく説明されていました。Lia さんからは「私は日本育ちで日本語も話せるけれども今日は英語で話します」と最初に言われ、流暢な英語で CIC 説明をされました。それに圧倒されたのか、日本語でも OK と言われていたにもかかわらずほとんどの生徒が英語で質問をする空気になりました。プレゼンの後は実際に働いている方がいるオフィスを見せて頂き、いよいよ“ベンチャーカフェ”に参加。こちらは週に一度開かれる交流イベント、まさにイノベーションが起こる場です。ビジネスの話をする大人が溢れる会場に、恐る恐る足を踏み入れる生徒たち。事前に Lia さんからはこんな会話をするといいとのアドバイスをもらっており、その助言通り近くにいる参加者に「どんな仕事をしているのか？」と言う質問からスタート。真剣に自分の事業について説明をしてくれたり、逆に質問を返してくれたりと会話が進んでいきます。Lia さんからは他にもいくつか英語のフレーズを教わっており、中には将来の夢に向けたアドバイスを求めるものもありました。ボストンで偶然出会った人からもらうエールは、勇気を出し一歩踏み出したからこそ得ることが出来た贈り物です。将来、この場所で働いている自分を思い浮かべたかもしれません。Lia さんからも「是非戻ってきて！」と熱いメッセージをもらいました。



授業の様子



CICのプレゼン



パワフルな Lia さん



ベンチャーカフェに参加！